

特集

動き出した 臓器移植

52

トレンドビュー

溶連菌感染の劇症例が増加 28

胸部大動脈瘤をカテで治す 30

X線撮影はCRからDRへ 34

ニュース追跡

市立甲府で放射性医薬品過剰投与 41

鑑別診断トレーニング

咽頭痛、倦怠感、四肢・体幹の
発疹で来院した51歳男性 79

プラクティカル講座

カテーテル由来感染をどう防ぐ
点滴セットの交換頻度減少へ 101

この人に聞く

リチャード・ホートン 「ランセット」日本特集の意義 152

Nikkei
日経メディカル

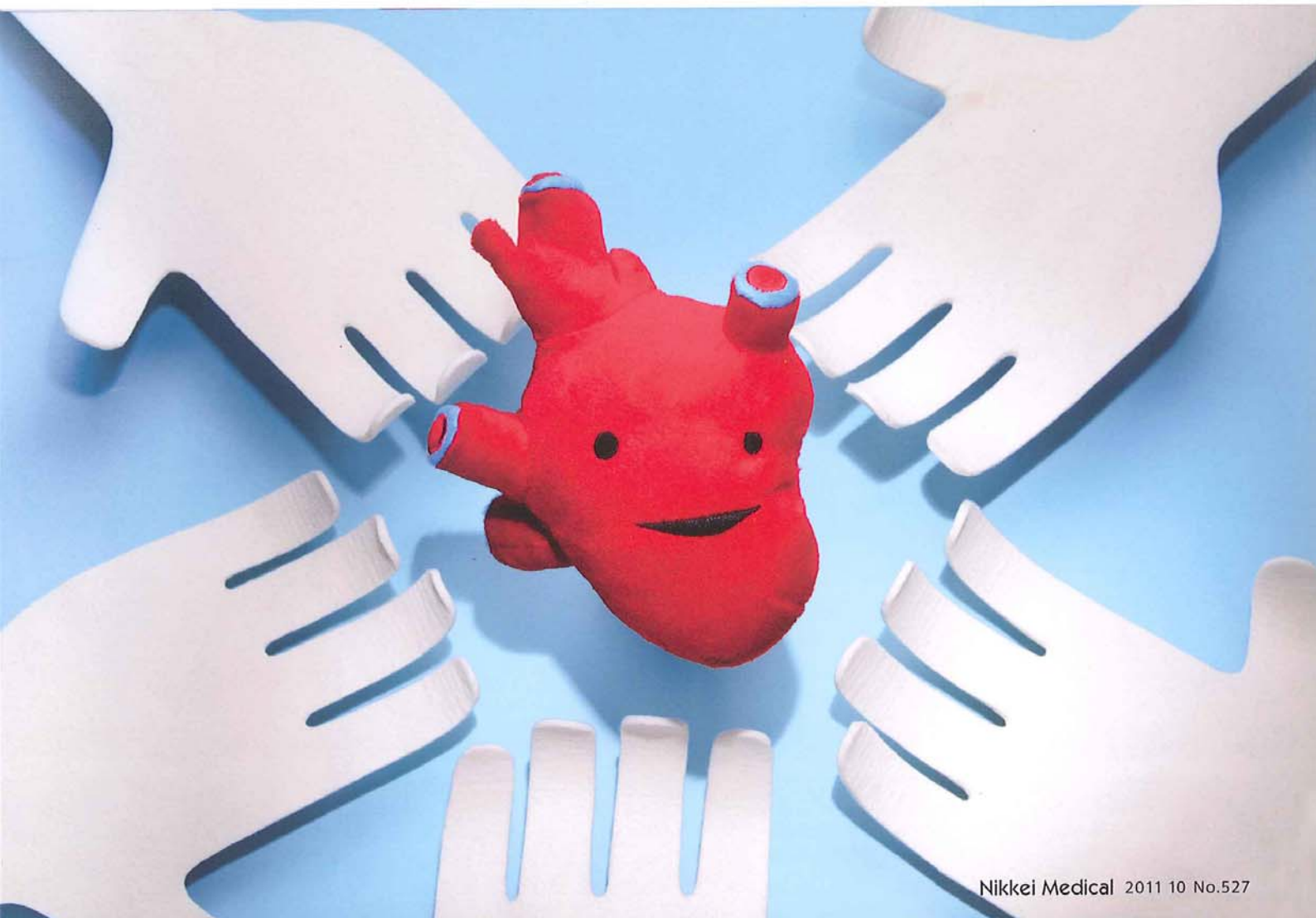
<http://medical.nikkeibp.co.jp>

Medical

10

October 2011

2011年10月10日発行
(毎月1回10日発行) 第527号



T TOPICS



■ ニュース	P.44
■ ニュース追跡	P.41・43
■ スクラップ	P.51

NEWS

日大練馬光が丘病院の撤退問題 後継法人は地域医療振興協会に

練馬区は9月16日、区議会の医療・高齢者等特別委員会を開催し、日大が来年3月末での運営撤退を表明している練馬光が丘病院（一般病床342床）の後継法人として、公益社団法人地域医療振興協会を選定したことを公表した。区は今後、病院引き継ぎに関する協議会を設置して詳細を詰めていく方針だ。

同病院は1991年の開設以来、一貫して支出超過が続き、2010年度の累積損失は90億円弱に達していたことから、日大本部が「この状態が続けば学校法人自体の存続も危うくなる」（広報課）と考えて撤退を表明していた。これを受けて練馬区は後継法人を公募し、医療関係者や有識者で構成される選定委員会で審査を行っていた。

その結果、①多数の自治体病院の運営を受託している②運営を担っている東京北社会保険病院（東京都北区）の分娩や救急受け入れの件数が練馬光が丘病院と同水準である③小児・周産期医療を継続するために必要な医師数が提示されて

いる——といった理由から、選定委員会は地域医療振興協会を後継法人に選んだ。

地域医療振興協会は、常勤の小児科医15人、産科医5人を確保し、練馬光が丘病院と同じ水準の小児科・産科医療を確保するとしている。

一方、地域住民などで組織する「日大光が丘病院の存続を求める区民の会」は同日会見を開き、「地域医療振興協会の運営で従来の医療水準を維持できるのか」と懸念を示した。その理由として同会は、①振興協会は僻地医療を中心とした地域医療の振興のために設立された法人で、日大が提供してきた高度医療の実施は本来的な役割に沿ったものとは言いがたい②ここ数年間で急激に運営医療機関を増やしているほか、来年4月から新たに浦安市川医療センター（千葉県浦安市）や三重県立志摩病院などの運営を開始する予定で、その状況下で光が丘病院において十分な医師・看護師が本当に確保できるのか危惧される③実際、スタッフを確保できず医療機能

の後退が深刻になっている運営病院がある——などの点を挙げた。

さらに、練馬区が一度も住民説明会を開いていないことや、選定委員会が2回しか開かれていない上、選定の詳細な経緯も明らかにしていないことへの不満も示した。同会は引き続き日大に対して撤退方針を白紙に戻すよう要求していく考えだ。

サプリの認知症改善効果 2施設共同試験で確認

アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症に伴うせん妄や異常行動などが、市販のサプリメント「フェルガード」の摂取により改善するとの研究結果を、東京医大八王子医療センター老年病科部長の金谷潔史氏が9月10日に開かれた認知症サプリメント研究会で発表した。

フェルガードは、米ぬかから抽出したフェルラ酸とセイヨウトウキの根抽出物ガーデンアンゼリカを混合したサプリメント。金谷氏は認知症に対するフェルガードの有効性を明らかにするため、八王子医療センター老年病科と汐入メンタルクリニック（神奈川県横須賀市）の2施設で認知症患者に投与し、前向きコホート

研究を実施した。

対象となったのは、八王子医療センター老年病科、汐入メンタルクリニックの外来通院患者で、アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の診断が確定し、何らかの中核症状や周辺症状 (BPSD) を有する患者32人。内訳はアルツハイマー型認知症が28人、レビー小体型認知症が4人。性別は男性が14人、女性は18人だった。平均年齢は80.7歳で、ほとんどの患者がアリセプトを服用していた。

試験方法はオープンラベルのコホート介入試験。患者にフェルガード1日2包 (朝夕2回) を2カ月間処方し、服用前後で評価を実施した。

認知症に伴う精神症状の評価には、妄想や幻覚、興奮やうつなど10項目について家族から聞き取り得点化するNPI (neuropsychiatric inventory) と、介護者の負担度の評価を示すNPI-Dを使用。認知機能の検査にMMSE (mini-mental state examination) とADAS-jcog (alzheimer's disease assessment scale-cognitive subscale, Japanese)、うつスケールにはGDS15 (geriatric depression scale) を採用した。八王子医療センターの22症例については、投与前後に画像試験としてSPECT検査を行い、脳血流の変化を計測した。

NPIについては、投与前21.3±20.9が投与開始2カ月後には15.6±14.9と有意に低下。NPI-Dでも、8.6±8.5が2カ月後には5.8±5.9

とスコアが有意に低下した。症状別には、妄想や幻覚、多幸や脱抑制といった症状に特に効果があった。また、NPI-Dでは妄想や脱抑制に効果が認められた。

このほか、MMSEは18.7±6.5から18.5±6.3へ、ADAS-jcogは21.0±9.8から20.4±12.2へ、GDS15は6.0±4.4から5.7±4.2へそれぞれ低下したが、有意差はなかった。

SPECT検査の結果、フェルガード投与後に両側帯状回、右前頭葉、左頭頂葉、脳幹に有意な血流上昇が見られた。また、左後頭葉、右後頭葉の一部に有意な血流の低下を認めた。金谷氏は、「症状改善と薬理作用の関係や脳血流変化の理由について研究を進めていきたい」と語っている。

チーム医療の人材養成支援 文科省が8大学を選定

文部科学省は9月7日、大学改革推進等補助金事業「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」の実施施設を発表した。選ばれたのは国立大5施設、私立大3施設の計8施設。施設名と取り組み内容は46ページ表1の通り。

この事業は、大学病院における専門職種の積極的な活用、多職種間の協働の推進、効率的なサービスの向上を目的に行うもの。そのための教育プログラムを開発・実践する大学病院を支援する目的で、今年度から開始した。5月25日から6月30日